

か も
音霊を神魂す歌姫

Takako Maria Matsuki Soprano Recital

松木貴子マリア

ソプラノリサイタル

後醍醐天皇

北ほつ関せつに御魂あり
ふるふる風のり
慈愛の心 日の本よみがえり



現代日本美術 大隅敏男【日の出、喜び!】(145.6×100cm)

出演

大蔵流狂言方

善竹 十郎

善竹 富太郎

太礼道神楽伎流 丹阿弥

久世 東伯

大倉流大鼓方

大倉 正之助

和琴・ギター

高谷 秀司

パイプオルガン

大木 麻理

2019

10/23(水) 19:00開演 (18:30開場)

ルーテル市ヶ谷センター

【主催】ローザロッサアートサロン

【特別協賛】株式会社 **コロト** 【協力】手染め布花「さくらひめ」装花制作 (株)FlowerポプリHOUSE

ご挨拶

～令和元年、即位礼お祝いに寄せて～

『世治り 民安かれと 祈るこそ 我が身につきぬ 思ひなりけれ』後醍醐天皇御製

このたびの台風19号により甚大な被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様が、一日も早く平常の生活に戻る事が出来ますよう、お祈り申し上げます。

本日は、お忙しい中、松木貴子マリアのソプラノリサイタル【後醍醐天皇～北関に御魂あり ふるふる風のり 慈愛の心、日の本よみがえり】に、ご来会頂きまして誠に有難うございます。昨日22日は、『即位礼 正殿の儀』でございました。このめでたき日の翌日にリサイタルを開催する運びとなりましたのは、ひとえに、ここに載せられないほどの多くの皆様のご指導、力強い応援と激励、ご協力のお陰でございます。深く深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

先月9月27日、吉野山・塔尾陵（とうのおのみささぎ）にて、宮内庁立会いのもと齋行された後醍醐天皇 御陵正辰祭と如意輪寺ご本堂での後醍醐天皇 御忌法要にお招き頂き参列させて頂きました。誠にあって畏れ多くも有り難きことでもございました。南朝皇居・吉水神社（吉水院）にては、御製の御心にしばし思いを馳せました。

春、4月の令和の元号発表は丁度 檀原神宮参拝の時、吉野山から天河へと南朝・後醍醐天皇の和歌奏上の旅をさせて頂きました。吉野山の美しい桜を愛で、鶯が鳴く様子は帝の御心と重ね御製に詠まれています。建武の新政は、国の行く末と民の安寧を思って起こされたものでした。苦渋の決断、二度隠岐島へ流されても脱出。希望を持って不撓不屈で再起した事実は、時代変革のエネルギーを感じます。

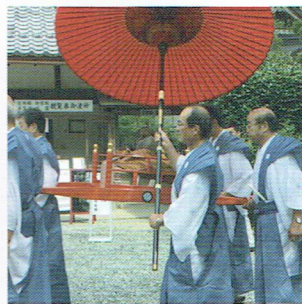
「日の本は敵も味方もなし。互いが支えるものであり支えられるものであった事をよみがえらせよ。そして、全て（生きとし生けるもの全て）の親兄弟達よ、しん（真、心、清、震、新、神、進、）じ合えよ。」この帝のメッセージを大切にしたいと思います。

台風で釜石の復興スタジアムが損傷しラグビー戦が中止となり戦わずして無念の最下位決定したカナダ代表が、地元の応援に対する感謝を示そうと泥清掃ボランティアをしました。「ボランティアが試合よりも大切です！」というカナダ代表。「後片付けの手伝いが出来て、住民に勇気づけられた」そうです。感動、感激しますね！

わたくし達の慈愛の光が、進み行く道を照らします。より一層、精進して参りますので、末永くご支援ご指導を賜れますよう宜しくお願い申し上げます。皆様のご健康とお幸せを祈念申し上げます。感謝を込めまして。



2019年10月23日 声楽家 神魂歌手 松木貴子マリア



2019年9月27日 吉野・如意輪寺 後醍醐天皇御忌法要に列席

ソプラノ ^{かもす} 神魂歌手 松木貴子マリア

歌の旅人、松木貴子マリアは音楽大学ピアノ専攻在学中、日本のオペラ界を支えた大プリマドンナ砂原美智子女史に見出され、歌の道に進む。2011年3月の東日本大震災は声楽家としての転機となり、日本人としてのアイデンティティに目覚める。国連本部ハマースホール、カーネギーホール、伊、仏、韓国、コートジボワール等の海外公演も経験し、コンサート出演の他、全国の神社やお寺、教会で神歌を奏上する。神魂（かもす）歌手の名は出雲国・須我神社にて拝命。独自の切り口の個性的な自主企画リサイタルを毎年開催し、オペラアリアやリート、日本歌曲、童謡唱歌の他にホツマツタエ、古事記、万葉集、百人一首などの和歌を自作の節にのせ歌い、クロアチア等民族色豊かな国の芸術歌曲作品も取り入れている。近年のリサイタル「崇徳上皇」、「良寛さま」、「細川ガラシャとマリー・アントワネット」は大好評を得た。言霊が幸わう愛と平和な響き、優しく凛とした祈りの響きで、自然と人を調え、思いやりや和（やわ）す心、融和的かつ慈愛に満ちた心を次世代に伝え、美しく清らかな日本文明を全世界へ発信したいと願い、中今を感謝を込めて歌う。



神魂歌手 松木貴子マリア ソプラノリサイタル

後醍醐天皇

Program

I

～死・終わりは始まり～

久世 東伯

『サムハラノ舞』

〈後醍醐天皇 辞世の句〉越天楽にのせて

～春はあけぼのに・玉骨はたとえ南山の苔に埋もるとも…～

J.S. Bach= Gounod : Ave Maria

G.Puccini : Salve del ciel Regina (栄えあれ、天の女王よ)

G.Puccini : オペラ『修道女アンジェリカ』から Senza mamma (母もなしに)

オルガンソロ演奏 大木麻理

J.S.Bach : O Mensch, beweine deine Sünde groß BWV622 (おお人よ、汝の大なる罪を嘆け)

リュート ギターソロ演奏 高谷秀司

高谷秀司 : 『日本の四季』 — THE SEASON OF EQUOLITY —

千原英喜 : Ave Maris stella 花も花なれ、人も人なれ ～細川ガラシャ夫人幻想～

II

～慈愛の心、日の本よみがえり～

後醍醐天皇 祝詞

大倉正之助

大鼓『無謡一調』

善竹十郎・善竹富太郎

狂言【月見座頭】～後醍醐天皇のオマージュ～

A.Scarlatti : アリア「Cald sangue 熱き血潮」にのせて

後醍醐天皇 御製三首

花に寝て よしや吉野の吉水の ……

おしなべて 空にしらるる 春の色を ……

ここにも 雲井のさくら 咲にけり ……

L.V.Beethoven : 讚美歌 No.22 『父母の愛をば』(「歡喜」より)

J.S.Bach : Choral No.1 BWV 439にのせて

「我らが光となれ、我らの慈愛の心 よみがえれ」

出演者プロフィール



能楽師
大蔵流狂言方
重要無形文化財総合指定保持者

善竹 十郎
善竹 富太郎

昭和19年生。故善竹圭五郎の長男。父及び祖父故善竹彌五郎（人間国宝）、大蔵流24世宗家故大蔵右衛門（伯父）に師事。早稲田大学政治経済学部卒。（公社）能楽協会、（一社）日本能楽会会員。日本笑い学会、笑いと健康学会、世界健康長寿学会、各会員。昭和58年芸術選奨文部大臣新人賞。平成5年大阪文化祭賞受賞。早稲田大学エクステンションセンター講師。東都大学客員教授。

学習院大学卒。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。



太礼道神楽伎流
丹阿弥
久世 東伯

1990年より京都伏見の稲荷山を居とする神仙《白翁老》より「イナリフトマニ」の開示の拝受後、数々の神秘体験を経て、2006年、京都錦小路、東京神楽坂にて「太礼道神楽伎流」を旗揚げする。以後、数々の太礼神楽の祭礼を執り行うと共に、2007年より神楽舞の所作を基本としたマニ・ボディワークの普及のため、「かぐらサイズ教室」を展開する。それと同時に、講演活動及び執筆活動に従事する。



能楽師
大倉流大鼓方
重要無形文化財総合指定保持者
大倉 正之助

聖徳太子より命ぜられ能楽創生に関わったと伝えられる秦河勝を祖とする金春流と共に、能楽史を築いてきた大鼓、小鼓能楽囃子の大家大倉流15世宗家故大倉長十郎長男として正之助誕生。9才、小鼓にて初舞台。その後、大鼓方になり能楽史上初となる大鼓ソリストとしての舞台表現を確立。世界各国の式典等にて大鼓独奏を披露する。伝統的能楽の世界では翁附五流五番能を自ら企画制作し全ての演目の大鼓を一人で演奏して成功させる。大鼓奏者としてはもちろん能楽史上初の快挙を達成する。伝統的能楽舞台活動は元より様々な分野の芸術家たちとの共演や伝統と革新を融合させる幅広い活動を展開している。



和琴奏者
ギタリスト
高谷 秀司

日本を代表するブルースギタリスト。日本人離れたグルーブと繊細でダイナミックな音色は『宇宙を彷彿とさせる』と定評がある。米、英、仏、台湾・インド・韓国など海外でも多数公演を行い、老若男女問わず虜にするパフォーマンスで人々を魅了し、各地メディアに取り上げられる。日本の“雅”、“人類の真心”を伝え、その繊細かつ大胆な表現で世界中のオーディエンスの納得を得ている。ゲジャラートビディアピス大学客員研究員。2018年インドで行われた世界平和会議にてメイン演奏、ガンジーアシュラムでは初となるコンサートを開催。主な共演者に、ラリー・カールトン、デュークジョーダン等。



パイプオルガン
オルガニスト
大木 麻理

東京藝術大学、同大学院修了。DAAD、ポセール財団の奨学金を得てリュベック国立音楽大学、デトモルト音楽大学に留学し、満場一致の最優等で国家演奏家資格を得て卒業。第3回ブクステフェーデ国際オルガンコンクール日本人初優勝、第65回「ブラハの春」国際音楽コンクール第3位、併せてチェコ音楽財団特別賞など国内外で多数受賞。デビューCD「Erinnerung」がレコード芸術特選盤に選出。ソロのみならず国内外のオーケストラ、アンサンブルと多数共演。NHK「リサイタル・ノヴァ」をはじめラジオやTV出演などオルガン音楽の普及に努める。個々のオルガンの可能性を活かした音色作りと高いテクニックは、多くのファンを魅了している。現在、東洋英和女学院大学および神戸女学院大学非常勤講師、ミューザ川崎シンフォニーホール・ホールオルガニスト。

解説紹介と訳詞

松木貴子マリア 記

サムハラ舞

太礼神楽は合氣道の流れにあり、合氣神楽は合氣道創設者の植芝盛平翁が晩年に伝えた氣感応動体舞法をいう。サムハラ舞は、この氣感応動体舞法の基本形の一つで、大麻幣を用いて天地時空の祓い鎮めを行うものです。

久世東伯 記

『越天楽・後醍醐天皇の辞世の句』 慈鎮和尚・後醍醐天皇 / 平井康三郎編曲

第96代天皇 後醍醐天皇(1288～1339)は、後宇多天皇の第二皇子としてお育ちになられ、笙の達人であり秀逸の和歌を沢山お詠みになりました。南朝皇居となった桜の名所 吉野・吉水院(現 吉水神社)にて詠まれた〈辞世の句〉は、武士主導の世から民の幸せと安寧が成就する世となるように、幾度も立ち上がり志半ばで逝く無念さを詠われた御製です。雅楽「越天楽」にのせパイプオルガンの荘厳さと雅びな響きの中で後醍醐天皇の御心を歌います。

越天楽(民の安寧を願う7世紀の宮廷音楽)

♪春の弥生の曙に 四方の山辺を見渡せば
花盛りかも 白雲の かからぬ峰こそ かかりけれ

後醍醐天皇 辞世の句

♪玉骨はたとえ南山の 苔に埋もるとも 魂魄は 常に北關の 天を望まん

越天楽を編曲した平井康三郎(1910～2002)は、伴奏に〈荒城の月〉のフレーズを用いています。又、荒城は南朝の陣を指していると言う説があります。



後醍醐天皇ご愛用の「笙」
(吉水神社宝物殿所蔵)

Ave Maria バッハ (1685 ~ 1750) = グノー (1818 ~ 1893)

バッハの「平均律クラヴィア曲集」第1巻第1番のプレリュードに、作曲家グノーが100年後、美しいメロディをのせ、天使ガブリエルがマリアに受胎告知した讃美歌として生まれました。マリア被昇天の日の8月15日は、日本では終戦の日であり恒久平和の誓いを立てた日です。後醍醐天皇の御在位終わりは1339年8月15日であったこともあり、歌で平和を誓い祈ります。

Ave Maria gratia plena,	おめでとうマリア 恵みに満ちた方
Dominus tecum ,	主はあなたと共にある
benedicta tu in mulieribus,	あなたは女性の中で祝福されている
et benedictus, fructus bentris tui,Jesus.	そしておなかの子、イエスもまた祝福されている
Sancta Maria,ora pro nobis peccatoribus,	聖なるマリア、私達 罪人の為にお祈りください
nunc,et in hora mortis nostrae. Amen.	今も、そして私たちの死の時も

Salve del ciel Regina 「栄えあれ、天の女王よ」 プッチーニ (1858 ~ 1924)

作曲家ジャコモ・プッチーニはオペラ作曲家として有名であるが、プッチーニ家は代々、宗教音楽家の家系であり、20代の若い頃は教会オルガニストとして職を得られていた。この『栄えあれ、天の女王よ。』のマリア讃歌は、音楽家としてまだ認められる以前の作品で、リードオルガンによるソプラノの為の宗教曲として作曲された。生前は出版されなかったが、後にオペラ作品のアリアとして使用されるほど美しい旋律である。22歳の時に転機が訪れた。ヴェルディの「アイダ」上演に接し多大な影響を受け、オペラ作曲家になる決意をし宗教音楽家の道をすてた。ミラノ音楽院で作曲家としての研鑽を積み、1884年26歳の時には、初のオペラ作品が上演される。『栄えあれ、天の女王よ』は、9世紀の頃からカトリックのマリア讃歌として歌われて来た。しかし、このプッチーニの作品はイタリア語で歌われ元のラテン語の歌詞内容とは異なるものの、わたくし達の母の様に、その慈愛とご慈悲とで私たちの心を救うマリア様を讃える精神は同じものである。

Salve del ciel Regina , Madre degli infelici ,	栄えあれ、天の女王よ、不幸な者の母よ、
Stella del mar divin dall'immortal fulgor .	永遠に輝く 天界の星よ。
Tu accogli e benedici d'ogni sventura il pianto ,	貴女は、あらゆる不幸に涙する者を受け入れて下さり、
d'un' sguardo Tuo fai santo ogni terreno amor .	あらゆる地上の愛は、貴女の眼差しで清められます。
Te ,nella veglia bruna , noma il fanciul gemendo ,	暗く眠れぬ夜、子供が泣きながら貴女を呼び、
Te , nella rea fortuna , invoca il pio nocchier .	嵐の時、敬虔な船乗りは貴女に無事を祈る。
Tu , sull'abbiso orrendo , il disperato arresti ,	貴女は、恐ろしい奈落のふちで絶望した者を
e di splendor celesti irradi il suo pensier .	引き留め、天の輝きでその希望を叶えて下さる。

オペラ『修道女アンジェリカ』からアリア～ Senza mamma 母もなしに～ プッチーニ

オペラ「修道女アンジェリカ」～あらすじ～

17世紀、伊の修道院が舞台。名家出身のアンジェリカは7年前、結婚なしに子どもを出産した。20年前にアンジェリカの両親が他界してした為、おばの公爵夫人が後見人として財産を管理し、家名の恥辱としてその事実を隠蔽された。アンジェリカは修道院に送られ、公爵夫人が彼女の子どもを養育した。アンジェリカは、我が子の事を忘れた日は一日としてなかった。いつか会える事を夢見て生きてきた。ある日、公爵夫人が修道院を訪れ、彼女に財産を放棄すること、子どもは2年前に高熱で亡くなっていたことを告げる。驚愕と絶望のあまり、草花を摘み毒薬を調合して飲んでしまう。自殺は大罪。天国への門は閉ざされる。自らの行為の非を悟り、聖母に赦しを求め懸命に祈り、安らかに息を引き取る。

アリア「母もなしに」訳

母もなしに、可愛い坊や あなたは 死んでしまったのね。母の愛もキスも知らずに、、、
冷たくなった 可愛い坊やの手。この手で十字架を担いだのね。
天使となった坊や。ママにはわかるわ、あなたが私の周りで羽ばたいているのを。
あなたは、ここにいる！ママにキスして、頼りして行くのよ。
天国でいつ逢えるのかしら。私はいつ死ぬの？話しておくれ、私の可愛い坊や。
星の優しい輝きと共に、話しておくれ、私の愛しい坊や！

オルガンソロ演奏 O Mensch ,bewein dein Sünde groß BWV622
(おお人よ、汝の大なる罪を嘆け) J.S.バッハ

日本の雅は、大地の心。大地と共に生きる命。
大地を耕し、豊かにしていく魂。

春夏秋冬の折節にふれ、迸る想いを、詩歌管弦にのせ表出してきた後醍醐天皇の立ち居振る舞い。
建武の新政は、単に貴族社会への戻りではなく、本来の日本の真心への回帰。
これぞ、武家、貴族を超えた人類の良心。
帝の心持ちに想いを馳せながら、「日本の四季」を、これからの恒久平和の為に作曲致しました。
敢えて、洋楽器 リュートギター一本で、和の根源を表現して参ります。
南北を超克した雅の真髄を御堪能下さい。
松木マリア様との出逢いの中で、今回の為に上梓致しました。

高谷秀司 記

Ave Maris stella 花も花なれ、人も人なれ～細川ガラシャ夫人幻想～ 千原英喜

昨年11月に、～終わりは始まり～として細川ガラシャ夫人とマリー・アントワネットをテーマにした『貴婦人の真珠物語』のリサイタルを開催し、ガラシャ夫人の和歌をサクソフォン、西洋古楽器とで歌いました。今回は、千原英喜氏の作品でガラシャ夫人の辞世の句を歌わせていただきます。千原英喜氏作曲の作品との出会いは、昨夏8月リサイタル『慈愛の人 良寛さま』の時の【雨ニモマケズ】でした。今回もまたユニークな作品です。人と自然と宇宙との繋がりを大切にしたい、自然と生命の調和のハーモニーをと願う作曲家に私も心から賛同しています。

Ave maris stella めでたし海の星
Dei mater alma 優しい込みの御母

ガラシャ夫人の和歌と辞世の句

♪ なびくまじ 我ませ垣の 女郎花 (おみなえし) あらぬかたより 風は吹くとも
(夫 細川忠興が朝鮮出兵時に送った和歌のご返歌の贈答歌: なびくなよ わが垣の 女郎花 男山より 風は吹くとも)

♪ 散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ

明智光秀の娘であるガラシャ夫人は、洗礼前の幼少時代から城でオルガンを弾き讃美歌を歌っていたと言う。
仏教や禅の摂理にも詳しい、聡明な女性でした。城の中に孤児院を作った夫人の気丈で慈愛に満ちた生き方は、イエズス会によって西洋に伝えられ、マリー・アントワネットなどの王侯貴族女性の生き方に大きな影響を与えました。夫人の和歌を歌う度にわたくしは、女性のあるべき姿を学ばせていただいています。感謝。

大鼓「無謡一調」

「無謡一調」とは、一人だけで雑子事を変奏することを言いますが、大倉師の「掛け声」と「調べ(打ち込み音)」は時空を超えて宇宙空間まで到達するような響きです。生命の響き、宇宙の鼓動の“調和の波動”で聴く者の身体の細胞全てが喜ぶことなのでしょう。生命の歡喜を共に！

狂言『月見座頭』～後醍醐天皇のオマージュ～

「月見座頭」—あらすじ—

下京に住む座頭が、名月の夜、虫の音を聞こうと野辺に出る。そこへ上京の男が通りかかり、ことばをかけたことから意気投合して酒宴となる。諷いた舞いつつ二人は機嫌良く別れて行く。ところがそこでふっと男の気が変わり、今度はからかってやろうとわざと座頭にぶつかって引き倒す。目の見えぬ座頭は、それが最前の男と同じだとは気がつかない。世の中には、先ほどのようなお方もあれば、今のようなひどい奴もいる——と一人淋しく杖を拾い、くしゃみをして去っていく。

数年前に狂言の師匠でもある善竹十郎先生のこの演目を拝見して、弱者と強者を描いた真に見事な舞台に大変な感動を覚えました。
昔も今も人の心の本質と言うものは、普遍。この度、後醍醐天皇のオマージュとして先生に「月見座頭」をお願い致しました。
ご長男善竹富太郎さんの上京の男、十郎先生の下京の座頭、皆様は何を思うのでしょうか？

後醍醐天皇 御製三首

♪ 花に寝て よしや吉野の 吉水の 枕の下に 岩はしる音
♪ おしなべて 空にしらるる 春の色 おのが寝の身と うぐいすぞ鳴く
♪ ここにても 雲井のさくら 咲きにけり ただ仮初めの 宿と思う

A. スカルラッチィ (1660-1725) のアリア「Cald sangue 熱き血潮」の音響を選曲。

『我らが光ぞ、我らの慈愛の心よみがえれ』(コラール No.1 より) 貴子マリア / J.S. バッハ

今こそ来ませり もろ人救う 我らが光になれ 日の本に よみがえる
清き御母の くすしみ子は 我らの慈愛の心 日の本に よみがえれ
暗きは去りて 真は光る



言霊を神魂す歌姫・ヴォイスヒーラー

松木貴子マリアの

『言霊 母音ヒーリング講座』

自然治癒力UP、五臓六腑に調和して活性化、体温上げ維持・血压安定
マリアの呼吸法でミトコンドリアを活性化し、若返り
健康維持しませんか。発声もしっかりと、気のエネルギーを増幅。

毎月第三土曜日 14:00 ~ 16:00 レッスン

会場/代官山 サロン ドゥ コロナ

レッスンに関するお問い合わせ takako_maria_m@yahoo.co.jp

呼吸法、発声を通じた身体作りと
日本語の美しさ・ことだま、
礼の大切さをご指導頂いています。
今夏8月のイベントに合唱部初出演。
来年の夏に向け練習しています。
どなたでも参加大歓迎！
ぜひ、横浜のクラスにお越しください。

毎月第1 金曜日 他
指導者 松木貴子マリア

お問い合わせ

いのち・こころ・からだ・くらしの学びあいの場
「NPO法人 Umiのいえ」
電話 045-324-8737
E-mail umi@uminoie.org



ハレノヒハレルヤ合唱部

～子連れパパママ、シングル、世代を超えた仲間募集中～

2019年8月25日 子どもとお父さんお母さん、皆んなで楽しく合唱♪

大好評！来年も開催決定です！

飛騨にゆうかわ太陽の家 夏合宿

～心と体、大自然にかえろう～
『縄文の響き合わせ』

ナビゲーター 作家・コトタマ案内人 宮崎貞行
響きと呼吸、うた人 松木貴子マリア



乗鞍岳を臨む 自然体験施設『太陽の家』

参加者募集 2020年8月8～10日



日の出とともに……

お問い合わせ

(株) 小林住宅工業内、太陽の家講座事務局
電話 045-303-1230
E-mail e-koba@kobaiyu.co.jp

つぎの快適をつくろう。

CORONA

マイナスイオンが作りだす
安らぎ空間。

ナノミストと100億個のマイナスイオンで温める、
低温・高湿度の
カラダにやさしい新感覚サウナです。

(自然の滝の近くは3,000～5,000個/ccのマイナスイオン)

低温・高湿度サウナ「ナノリッチ」で、新しい入浴スタイルを始めませんか？
家族の健康のために、毎日続けたい「健康入浴」。
「ナノリッチ」は低温だから身体への負担が少なく、小さなお子様からご年輩の方まで、
ゆっくり温まり、たっぷりの汗をかくことができます。

ナノミストサウナ **NANO-RICH** ナノリッチ



株式会社 **コロナ** 本社 / 〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7 TEL.0256 (32) 2111 (代)

思いやりの心、まごころ、慈愛の心を次世代へ!



「マリアとハレノヒハレルヤ合唱団」(横浜 Umi のいえ)



「聖母子」
(横浜 豊倉助産院)

皆様に歌いましょう

讃美歌 No.22 『父母の愛をば』(「歡喜」より) 貴子マリア/ベートーヴェン

御神の愛をば 歌(うと)う 我らの 胸は開きたり 花の如くに
御顔の光に 迷いの霧も 疑いの雲も 消えて後なし

世界の兄弟 平和を歌う 月 星 太陽 称えよ神を
雪降る高嶺も 花咲く谷も 林も野原も 砂漠も海も

御神は罪ある者をも愛し 我なる光を 照らしたもう
赦しの御恵み きよむる力 筆にも声にも 述べ尽くしえず

御神は我らの 父母(ちちはは)なれば 我なる慈愛は 我うちにあり
世人よ親しみ 互いに助け 真心尽くして 日の出に歡喜

愛



南朝皇居 吉野・吉水院
(現 吉水神社) 日本最古の書院



「後醍醐天皇 玉座の間」の前で正座し、静かに耳を
すませば 笙や琵琶の音が遠くから……



後醍醐天皇が崩御されると、楠木正成公忠
臣達がこの北關門で泣き崩れたそうです。